

日本と ASEAN 人的交流の拡大

日本から仕事や観光で出ていくだけではない、
双方向に行き交う関係になった。

日外協 広報部

二桁の伸びが続く訪日客

日外協の「日本語スピーチ・コンテスト優秀者招へい事業」が始まったのは1986年。当時の全世界からの訪日客数は約200万人、うち東南アジアからは15万人程度と推測される。

訪日客は2010年代に入り急増した。13年、全世界からの訪日客は1000万人を突破、ASEANもタイ、フィリピン、マレーシア、シンガポール、インドネシア、ベトナムの6カ国合計で初めて100万人を超えた。

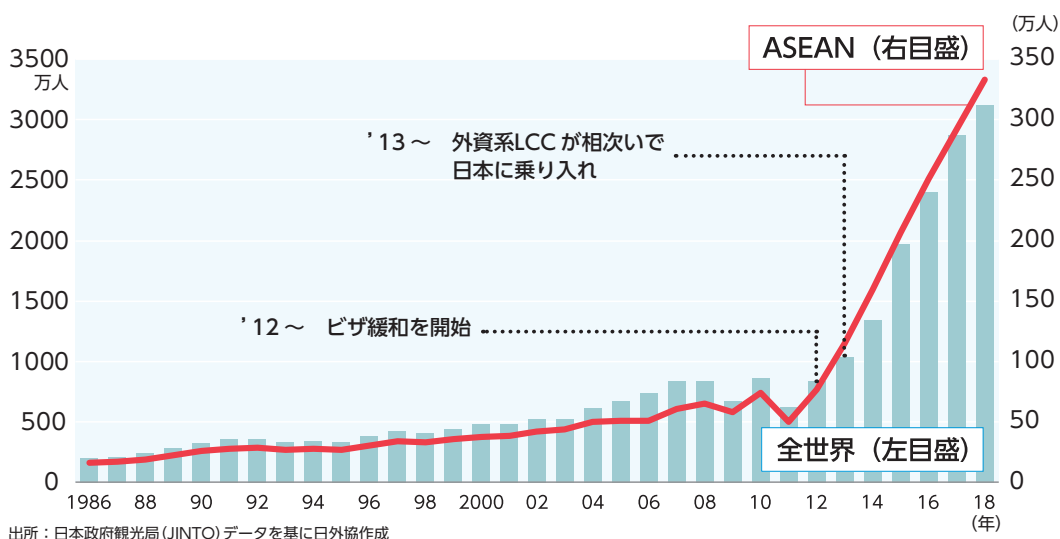
18年は全世界から3119万人が日本を訪れ、うちASEANから333万人。いずれもここ数年は2桁の伸びが続いている(図表1)。

訪日客が増えた主な要因として、前・観光庁長官の田村明比古氏は次の4つを挙げている。

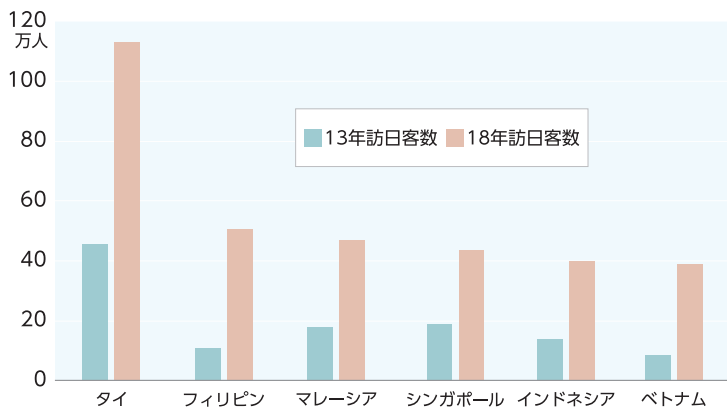
第1にアジアを中心に新興国、途上国の経済が成長して海外旅行ができる中間層が増えたこと。第2にそうした中で、政府として2012年から近隣国を中心に戦略的にビザ要件を緩和したこと。第3に急速に普及したLCC(格安航空)の就航を促進したこと。第4にWi-Fiなど通信環境を整えることで、SNSで日本の良さが口コミで伝わるようになったこと(本誌18年9月号)。

ASEAN 6カ国を国別に見ると、18年はタイが113万人、フィリピン50万人、マレーシア47万人、シンガポール44万人、インドネ

図表1 訪日外客数推移



図表 2 ASEAN 6 カ国からの訪日客数



出所：日本政府観光局 (JINTO) データを基に日外協作成

シア 40 万人、ベトナム 39 万人。

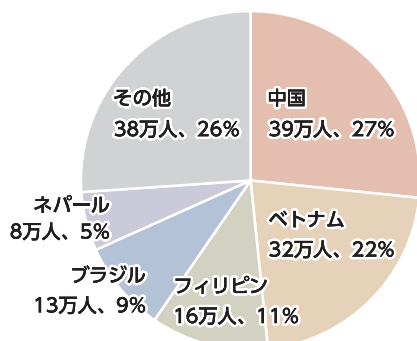
5 年前 (2013 年) との比較では、フィリピンとベトナムがそれぞれ 4.7 倍、4.6 倍。他の 4 カ国も 2 ~ 3 倍に (図表 2)。

ベトナム人労働者・留學生が急増

増加しているのは訪日旅行者だけではない。日本では雇用情勢の改善が着実に進み中で、少子化による労働力不足が深刻化、幅広い業種で外国人を雇用する動きが広がっている。

厚生労働省によると、18 年 10 月末現在の外国人労働者数は 146 万人。この 5 年間で倍増した。国・地域別の内訳では、中国が最多で次いでベトナム、フィリピン (図表 3)。5 年前

図表 3 外国人労働者の国・地域別内訳 (2018 年 10 月末現在)



出所：厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況を基に日外協作成

と比較すると、中国が 28% 増、フィリピンが 106% 増なのに對して、ベトナムは実に 8 倍になった。

日本に来ている留學生は 18 年、約 30 万人。出身国・地域では、これも中国が最多で約 11 万人、次いでベトナムが約 7 万人。ASEAN では他にインドネシア、ミャンマーが約 6 千人 (7 位、8 位)、タイが 4 千人

(9 位)。5 年前と比べると、ベトナムが 5.2 倍と突出。インドネシアとミャンマーもそれぞれ 2.3 倍、3.7 倍となった (図表 4)。

図表 4 ASEAN からの留學生の主な出身国

国・地域	2018 年	2013 年	5 年間の比較
ベトナム	72,354 人	13,799 人	5.2 倍
インドネシア	6,277	2,787	2.3
ミャンマー	5,928	1,598	3.7
タイ	3,962	2,876	1.4

出所：文部科学省「外国人留學生在籍状況調査等について」

新時代の到来 ASEAN から日本へ

日本企業が ASEAN に本格的に進出するようになったのは 1960 年代。以来、ASEAN は生産拠点として存在感を高めていく。そして、2000 年代以降は、市場としてもその将来性に注目が集まるようになる。ただ、それでも日本から一方的に出ていく関係ではなかったか。

そんな日 ASEAN 関係に転機が訪れつつある。相互に人が行き来する新たな段階に入った。「生産拠点として」「市場として」だけではなく、「パートナーとして」、ASEAN と真正面から向き合う時代を迎えている。